



## 2025年6月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（非連結）

2025年2月13日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社キャンバス

コード番号 4575 URL <https://www.canbas.co.jp>

代表者 （役職名）代表取締役社長 （氏名）河邊 拓己

問合せ先責任者 （役職名）取締役最高財務責任者 （氏名）加登住 眞 TEL 055-954-3666

半期報告書提出予定日 2025年2月13日

配当支払開始予定日 ー

決算補足説明資料作成の有無：有

決算説明会開催の有無：有（証券アナリスト、機関投資家向け）

（百万円未満切捨て）

### 1. 2025年6月期第2四半期（中間期）の業績（2024年7月1日～2024年12月31日）

#### （1）経営成績（累計）

（%表示は、対前年中間期増減率）

	事業収益		営業利益		経常利益		中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年6月期中間期	ー	ー	△468	ー	△479	ー	△480	ー
2024年6月期中間期	ー	ー	△387	ー	△393	ー	△393	ー

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2025年6月期中間期	△25.77	ー
2024年6月期中間期	△22.37	ー

#### （2）財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年6月期中間期	3,131	3,021	95.3
2024年6月期	2,432	2,340	94.7

（参考）自己資本 2025年6月期中間期 2,985百万円 2024年6月期 2,304百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年6月期	ー	0.00	ー	0.00	0.00
2025年6月期	ー	0.00			
2025年6月期(予想)			ー	0.00	0.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 2025年6月期の業績予想（2024年7月1日～2025年6月30日）

2025年6月期の業績予想については、提携契約等の締結に至った場合に当該契約が2025年6月期の事業収益・事業費用等に及ぼす影響、ならびに、研究開発費に大きな影響を及ぼすCBP501臨床試験の進行について、いずれも合理的な予測が困難であり、現時点で合理的な業績予想の算定ができないため、記載していません。

なお、業績見通しが判明した場合には、速やかにお知らせします。

※ 注記事項

(1) 中間財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更： 無

② ①以外の会計方針の変更： 無

③ 会計上の見積りの変更： 無

④ 修正再表示： 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

2025年6月期中間期	19,113,655株	2024年6月期	18,023,655株
2025年6月期中間期	10,598株	2024年6月期	598株
2025年6月期中間期	18,635,502株	2024年6月期中間期	17,607,805株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数（中間期）

※ 第2四半期（中間期）決算短信は公認会計士または監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、[添付資料] 2ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご参照ください。

○添付資料の目次

1. 当中間決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	2
2. 中間財務諸表及び主な注記 .....	3
(1) 中間貸借対照表 .....	3
(2) 中間損益計算書 .....	4
(3) 中間キャッシュ・フロー計算書 .....	5
(4) 中間財務諸表に関する注記事項 .....	6
(継続企業の前提に関する注記) .....	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	6
(セグメント情報等の注記) .....	6
(中間キャッシュ・フロー計算書に関する注記) .....	6
3. その他 .....	7
継続企業の前提に関する重要事象等 .....	7

## 1. 当中間決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当社の属する抗がん剤開発の領域は、臨床上の治療満足度が未だ低くアンメットニーズが大きいことなどから、世界の製薬企業や当社同様のベンチャー企業（創薬ベンチャー）が、それぞれの強み・特色を活かした画期的新薬の開発を目指し、研究開発に日々しのぎを削っています。

この中で当社は、独自の創薬アプローチを活かした基礎研究および臨床開発に取り組みました。

当社の開発パイプライン中で最も先行している化合物CBP501は、当社独自のスクリーニング（薬剤探索）から獲得された、蛋白質カルモジュリンの制御機能を調整し複数の作用により免疫コールド（がんを攻撃するT細胞の乏しい状態）ながんを免疫ホット（T細胞が存在しがんを攻撃できる状態）ながんにすることで抗がん活性を示す、独特の抗がん剤（免疫着火剤）です。米国FDAの規制下で、免疫チェックポイント阻害抗体との併用による臨床第2相試験（対象：膵臓がん3次治療）を実施し、CBP501を含む3剤併用投与群において忍容性のある安全性と持続的な奏効で臨床的に意義のある改善をもたらし、主要評価項目を達成しました。その後、米国においては次相臨床試験として臨床第2b相試験の開始承認を規制当局から獲得したため、その開始に向けた準備の一部を進め、これと並行して現在は欧州において承認獲得を目指す臨床第3相試験の開始に向けた規制当局への申請と準備の活動を進めています。

また、2つ目の候補化合物CBS9106は、同じスクリーニングから獲得された、可逆的XP01阻害剤です。当社は同化合物について、開発・製造・商業化にかかる全世界における独占的権利を供与するライセンス契約を米国 Stemline Therapeutics, Inc. との間で締結しています。なお、この提携による収益は現在発生していません。

さらに当社は、これら2つの候補化合物の開発を推進すると共に、これらの開発の過程で新たに得られた知見を踏まえて創出したCBT005、CBP-A08、静岡県立大学との共同研究により最適化を進めているIDO/TDO阻害剤など、新規候補化合物の創出・開発パイプラインの拡充に向けて、探索研究と開発準備を実施しています。これらのうちCBT005については、開発の初期段階である前臨床試験（臨床試験開始申請のために必要なデータを揃えるための非臨床試験）へ進めることを決定し、そのための準備を開始しました。

以上の結果、当中間会計期間の研究開発費は、前年同期比81百万円増加の322百万円となりました。販売費及び一般管理費は、前年同期比横這いの145百万円となりました。研究開発費と合わせた事業費用は、前年同期比81百万円増加の468百万円となりました。

この結果、営業損失は前年同期比81百万円損失増の468百万円、経常損失は前年同期比86百万円損失増の479百万円、中間純損失は前年同期比86百万円損失増の480百万円となりました。

なお、営業外損益として、営業外費用に株式交付費4百万円、為替差損6百万円を計上しています。

### (2) 財政状態に関する説明

当中間会計期間末の総資産は3,131百万円となり、前事業年度末比699百万円の増加となりました。資産の部においては、主としてCBP501の欧州臨床第3相試験準備の進捗による支出とそれを上回る新株予約権行使による資金調達の結果、流動資産の現金及び預金が973百万円増加しました。負債の部においては、上記臨床試験準備の進捗に伴い流動負債の未払金が20百万円増加しました。純資産の部においては、中間純損失の計上により利益剰余金が480百万円減少する一方、新株予約権の行使に伴い、資本金および資本準備金がそれぞれ580百万円増加しました。

### (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社は、現時点では上市された製品を有しておらず、CBP501をはじめとした候補化合物の研究開発を進める先行投資の段階にあります。

当社は現在CBP501および後続化合物群についてアライアンス獲得活動を実施しており、この活動を通じて提携契約等の締結に至った場合には、当該契約に基づき一時金等を獲得する可能性や、研究開発費の一部が相手方負担となる可能性があります。また、当事業年度の研究開発費の大部分を占めるCBP501臨床試験の進行については、今後の展開方針や費用計上時期等について不確実性が大きく、決算期末を挟む数ヶ月の進捗ペースによって2025年6月期の事業費用は大きく変動する可能性があります。これらの理由から、2025年6月期の事業収益および事業費用をはじめとする業績の合理的な予測は、現時点では困難な状況です。

この点を考慮し、現時点においては2025年6月期の業績予想を記載していません。業績見通しが判明次第速やかに公表いたします。

## 2. 中間財務諸表及び主な注記

## (1) 中間貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2024年6月30日)	当中間会計期間 (2024年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,888,200	2,861,490
その他	420,265	161,169
流動資産合計	2,308,466	3,022,660
固定資産		
投資その他の資産	124,389	109,249
固定資産合計	124,389	109,249
資産合計	2,432,855	3,131,909
<b>負債の部</b>		
流動負債		
未払金	45,355	66,135
未払法人税等	45,282	43,462
その他	1,351	1,136
流動負債合計	91,988	110,735
負債合計	91,988	110,735
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	7,585,635	8,166,177
資本剰余金	7,572,485	8,153,027
利益剰余金	△12,853,099	△13,333,371
自己株式	△401	△401
株主資本合計	2,304,619	2,985,430
新株予約権	36,247	35,743
純資産合計	2,340,867	3,021,174
負債純資産合計	2,432,855	3,131,909

## (2) 中間損益計算書

(単位: 千円)

	前中間会計期間 (自 2023年 7月 1日 至 2023年12月31日)	当中間会計期間 (自 2024年 7月 1日 至 2024年12月31日)
事業費用		
研究開発費	241,042	322,875
販売費及び一般管理費	146,368	145,939
事業費用合計	387,411	468,815
営業損失 (△)	△387,411	△468,815
営業外収益		
受取利息	13	169
その他	2	1
営業外収益合計	16	170
営業外費用		
株式交付費	4,517	4,063
為替差損	1,358	6,939
その他	69	—
営業外費用合計	5,945	11,002
経常損失 (△)	△393,340	△479,647
税引前中間純損失 (△)	△393,340	△479,647
法人税、住民税及び事業税	625	625
法人税等合計	625	625
中間純損失 (△)	△393,965	△480,272

## (3) 中間キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	前中間会計期間 (自 2023年 7月 1日 至 2023年12月31日)	当中間会計期間 (自 2024年 7月 1日 至 2024年12月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税引前中間純損失 (△)	△393,340	△479,647
受取利息	△13	△169
為替差損益 (△は益)	2,419	6,854
未収入金の増減額 (△は増加)	17	251,741
その他	17,952	51,763
小計	△372,964	△169,457
利息の受取額	13	169
法人税等の支払額	△1,250	△1,250
営業活動によるキャッシュ・フロー	△374,201	△170,537
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
株式の発行による収入	1,539,306	1,150,682
自己株式の取得による支出	△9	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,539,296	1,150,682
現金及び現金同等物に係る換算差額	△2,419	△6,854
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	1,162,676	973,289
現金及び現金同等物の期首残高	1,617,795	1,888,200
現金及び現金同等物の中間期末残高	2,780,472	2,861,490

(4) 中間財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

新株予約権の権利行使に伴い、当中間会計期間において資本金が580百万円、資本準備金が580百万円増加し、当中間会計期間末において資本金が8,166百万円、資本準備金が8,153百万円となりました。

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

当社は、医薬品事業の単一セグメントであるため、記載を省略しています。

(中間キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

※ 現金及び現金同等物の中間期末残高と中間貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は下記のとおりです。

	前中間会計期間 (自 2023年 7月 1日 至 2023年12月31日)	当中間会計期間 (自 2024年 7月 1日 至 2024年12月31日)
現金及び預金勘定	2,780,472千円	2,861,490千円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	一千円	一千円
現金及び現金同等物	2,780,472千円	2,861,490千円

### 3. その他

#### 継続企業の前提に関する重要事象等

当社が手がける創薬事業は、医薬品として承認された製品の売上による事業収益の計上までに多額の資金と長い時間を要する等の特色があります。当社は創業以来現時点まで製品の売上による事業収益を計上しておらず、また、現時点において、医薬品として承認された製品、承認が確実となっている開発品のいずれも有していません。

現在開発を進めている医薬品候補化合物は、CBP501については膵臓がんを対象とした次相臨床試験の準備段階、CBS9106については臨床第1相試験を終了し導出先において次相臨床試験の計画段階にあります。これらの候補化合物の開発が今後順調に進捗し医薬品として承認され事業収益に寄与する保証はなく、また、順調に進捗した場合にはさらに多額の資金を投入して開発を進める必要があり、この資金の源泉となる製薬企業等との提携等が必要となるところ、当社は現時点において、CBP501については製薬企業等との提携関係を有しておらず、CBS9106については提携パートナーを有しているもののこの提携による収益は現在発生していません。この状況により当社には、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在しています。

当該状況を解消すべく、当社は、必要に応じて資金調達等を実施するほか、CBP501にかかる追加的な戦略提携などによる収益の獲得に努めます。併せて、CBT005など後続のパイプラインに関しても、その開発状況に応じて早期アライアンスの獲得活動あるいは資金調達を進めていきます。